



資料 3

令和 7 年度行政経営システム（サマーレビュー） 実施内容（概要）

復興企画部 企画課





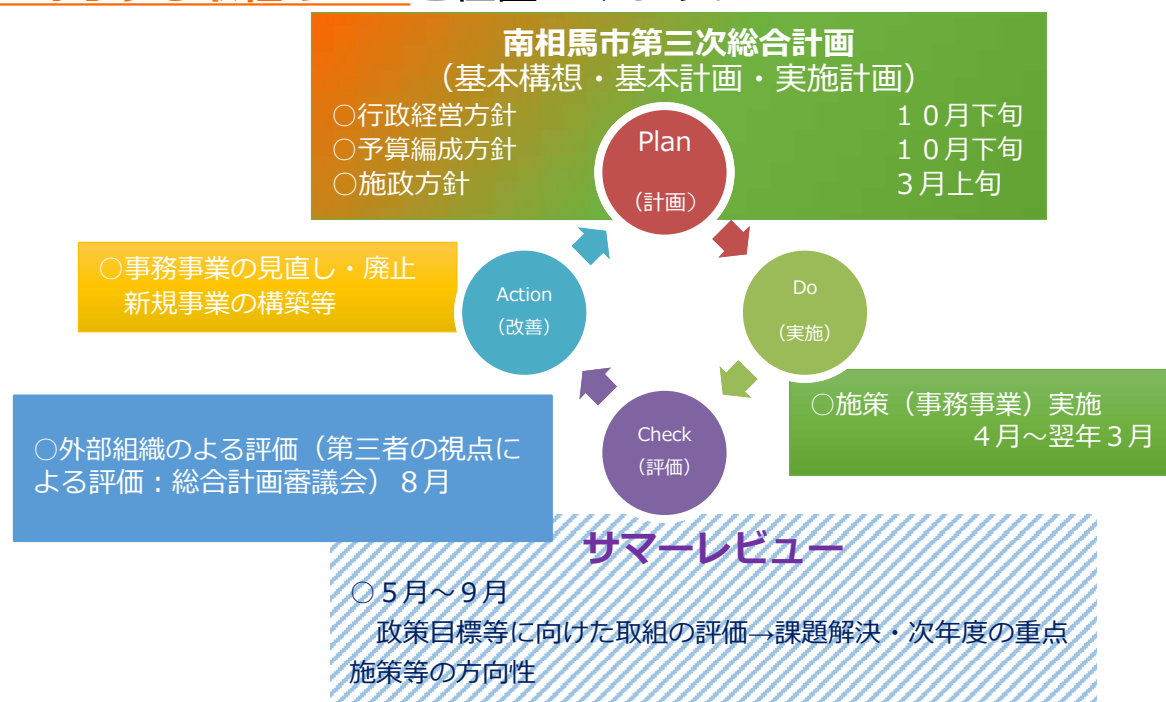
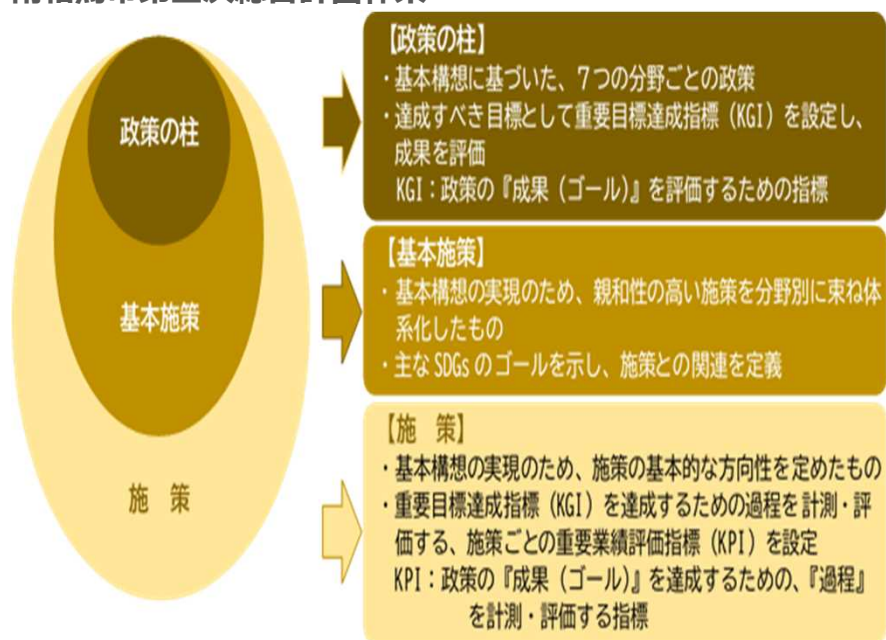
1 行政経営システム『サマーレビュー』とは

・『南相馬市第三次総合計画』（以下「第三次総合計画」という。）は、毎年度、成果指標として、「政策の柱」における重要目標達成指標（KGI）（以下「KGI」という。）、「施策」における重要業績達成指標（KPI）（以下「KPI」という。）を検証するとともに、事業の有効性を評価し、計画の進捗管理を行います。また、評価結果は、翌年度の実施計画に反映し、予算編成と連動させるPDCAサイクルの実効性を確保します。加えて、市民が参加する外部組織による評価によって、評価の客観性を担保するとともに、実施計画や評価結果を公表することで透明性を担保します。

・サマーレビューとは、令和7年度南相馬市行政経営方針に基づき、このPDCAサイクルの仕組みのうち、Check（評価）→Action（改善）の過程の中で、毎年の決算時期等（6月～9月）を捉え、次年度の予算編成前に、市の政策目標等の達成に向けた取組を評価し、その結果を基に、これらの課題解決や翌年度における重点施策等の方向性を示すものです。

また、第三次総合計画に基づく『各分野別計画』の進行管理を兼ねるとともに、南相馬市DX推進ビジョンに基づく、BPR（抜本的な事務事業・業務見直し）に寄与する取組の一つと位置づけます。

■ 南相馬市第三次総合計画体系





2 第三次総合計画 前期基本計画 施策体系

前期基本計画

Basic Early-Period Plans

2. 施策の体系

政策の柱	基本施策	施策
政策の柱 1 教育・学び	1. 学校教育	① 豊かな心と体の育成 ② 教育水準の向上 ③ 教育環境の整備 ④ 児童・生徒の状況に応じた支援の充実
	2. 生涯学習	⑤ 生涯学習の充実 ⑥ 芸術文化の充実 ⑦ ジェンダー平等社会の推進
政策の柱 2 こども・子育て	3. こども・子育て	⑧ 結婚・妊娠・出産への支援 ⑨ 保育・幼児教育の充実と質の向上 ⑩ 子育て環境の充実 ⑪ こどもの健やかな成長のための支援
	4. 健康・スポーツ	⑫ 疾病予防の推進 ⑬ 心身の健康づくりの推進 ⑭ 放射線に対する健康不安の軽減 ⑮ あらゆる世代でのスポーツの推進
政策の柱 3 健康・医療・福祉	5. 地域医療	⑯ 地域医療提供体制の維持・強化 ⑰ 地域の包括的な医療・介護サービス提供体制の推進
	6. 福祉	⑱ 地域福祉の向上 ⑲ 介護予防と高齢者福祉の向上 ⑳ 障がい児・者福祉の向上
政策の柱 4 産業・ しごとづくり・ 移住定住	7. 農林水産業	㉑ 担い手の確保・育成と効率的な生産基盤の整備 ㉒ 戦略的な生産と需要を創出する流通・販売の推進 ㉓ 活力と魅力ある農山漁村の創出
	8. 商工業	㉔ ロボット・ドローンを始めイノベ重点分野※等の新産業創出・育成 ㉕ 市内事業者の振興 ㉖ 多様な人材の確保と就労支援の充実 ㉗ 新たなチャレンジを支える街なかの活性化
	9. 観光交流	㉘ 通年観光の推進 ㉙ 馬事文化振興及び馬事関連観光の推進 ㉚ 交流人口の拡大
	10. 移住定住	㉛ 移住促進・定住支援の充実

まちづくりの基本目標
『未来の南相馬の姿』

100年のまちづくり
～ 家族や友人とともに暮らすまち～

まちづくりの基本姿勢

つなぐ

よりそう

いどむ

政策の柱	基本施策	施策
政策の柱 5 都市基盤・ 環境・防災	11. 都市基盤	㉜ 道路網の整備 ㉝ 雨水排水対策の推進 ㉞ 上下水道の整備 ㉟ 住環境の整備 ㊱ 公共交通の確保
	12. 生活環境	㊲ ごみの減量と再資源化の推進 ㊳ 環境の保全 ㊴ 脱炭素社会を目指したエネルギーの利活用
	13. 地域防災	㊵ 防災体制の強化 ㊶ 消防力の強化
	14. 交通安全・防犯	㊷ 交通安全の推進 ㊸ 防犯の推進 ㊹ 市民相談体制の充実
政策の柱 6 地域活動・行財政	15. コミュニティ・ 市民参加	㊺ 地域コミュニティの再構築と活性化 ㊻ NPO・市民活動団体等との協働の推進 ㊼ 情報発信・広報の推進
	16. 行財政	㊽ 効果的な行政運営 ㊾ デジタル変革(DX)の推進 ㊿ 公有財産保有量の最適化と活用 ㉀ 健全な財政運営
政策の柱 7 原子力災害復興	17. 原子力災害復興	㉁ 旧避難指示区域の復興・再生 ㉂ 東日本大震災及び原発事故被災者への支援 ㉃ 環境の回復 ㉄ 政策の柱1から政策の柱6までの各施策(再掲)



3 第三次総合計画における政策・施策（計画上の体系）を踏まえた評価する際の留意点

1. 基本計画の構成と見方

「政策の柱」「基本施策」「施策」については以下の内容を記載しています。

政策の柱

1

教育・学び

目指す姿

人は学ぶことで豊かれています。誰もが安心して、いつでも、どこでも学ぶ機会が求められています。教育水準の向上と、先人から受け継いだ伝統の発展、歴史・伝統を基にした教育により、こどもの未来を切り拓く力を育みます。また、人生100年時代において、よりの豊かな人生を送ることのできるよう、生涯にわたって学ぶことのできる環境づくりを推進することにより、誰もが学びたいことを学び続けられるまちを目指します。

項目(重要目標達成指標)	現況値	目標値(100%)
国際学力調査(読解力) (小5、中2)における達成率	48.8%	60.5%
国際学力調査(算数) (小5、中2)における達成率	48.8%	60.5%
国際学力調査(国語) (小5、中2)における達成率	48.8%	60.5%
国際学力調査(英語) (小5、中2)における達成率	48.8%	60.5%
国際学力調査(総合) (小5、中2)における達成率	48.8%	60.5%

目指す姿

7つの政策の柱ごとの、該当する施策を通じて目指す、まちの姿です。

重要目標達成指標(KGI)

7つの政策の柱ごとの、目指す姿の実現のための達成すべき目標(ゴール)で、4年後の目標値を設定するとともに、毎年度の目標値を達成できたかを毎年評価していきます。

KGIの達成状況を評価・分析する際は、**KPIの達成状況との関係性**を、**KPIの達成状況**を評価・分析する際は、**事務事業(実施計画掲載事業)**との**関係性**を紐づけます。

また、**KGIと目指す姿**、**KPIと基本施策の現状と課題**、**施策の展開**、**取組方針**、**主な取組例**の方向性を再確認していきます。

政策の柱	基本施策	施策
政策の柱 1 教育・学び	1. 学校教育	① 豊かな心と体の育成 ② 教育水準の向上 ③ 教育環境の整備 ④ 児童・生徒の状況に応じた支援の充実
	2. 生涯学習	⑤ 生涯学習の充実 ⑥ 芸術文化の充実 ⑦ ジェンダー平等社会の推進

基本施策

政策の柱に基づいた17の分野別の主要施策です。

現状と課題

基本施策ごとに、現状と課題となる事項を記載しています。

関連するSDGs

SDGsの17のゴールのうち、施策内容に関連するゴールを記載しています。

第3編 前期基本計画/第2章 分野別施策の展開

Basic Early-Period Plans

第3編 前期基本計画/第2章 分野別施策の展開

1. 学校教育

現状と課題

グローバル化の進展やデジタル化の進展など、国際的な社会環境は急速に変化しています。これにより、こどもの未来を切り拓く力を育むことが求められています。また、国際的な社会環境の変化により、こどもの未来を切り拓く力を育むことが求められています。また、国際的な社会環境の変化により、こどもの未来を切り拓く力を育むことが求められています。

施策の展開

基本施策に関連する施策ごとの、今後4年間でやっていく方針等を示しています。

重要業績評価指標(KPI)

政策の柱ごとの重要目標達成指標(KGI)を達成するための「過程」を評価するための指標です。KGIと同様に、4年後の目標値を設定するとともに、毎年度の目標値を達成できたかを毎年評価していきます。

取組方針

施策の基本的な方針を記載しています。

主な取組例

施策に関連する主な取組を一例として記載しています。記載している以外の取組も、社会動向や市民・事業者等のニーズを踏まえながら実施していきます。

KPI(重要業績評価指標)

項目(重要業績評価指標)	現況値	目標値(100%)
国際学力調査(読解力) (小5、中2)における達成率	48.8%	60.5%
国際学力調査(算数) (小5、中2)における達成率	48.8%	60.5%
国際学力調査(国語) (小5、中2)における達成率	48.8%	60.5%
国際学力調査(英語) (小5、中2)における達成率	48.8%	60.5%
国際学力調査(総合) (小5、中2)における達成率	48.8%	60.5%

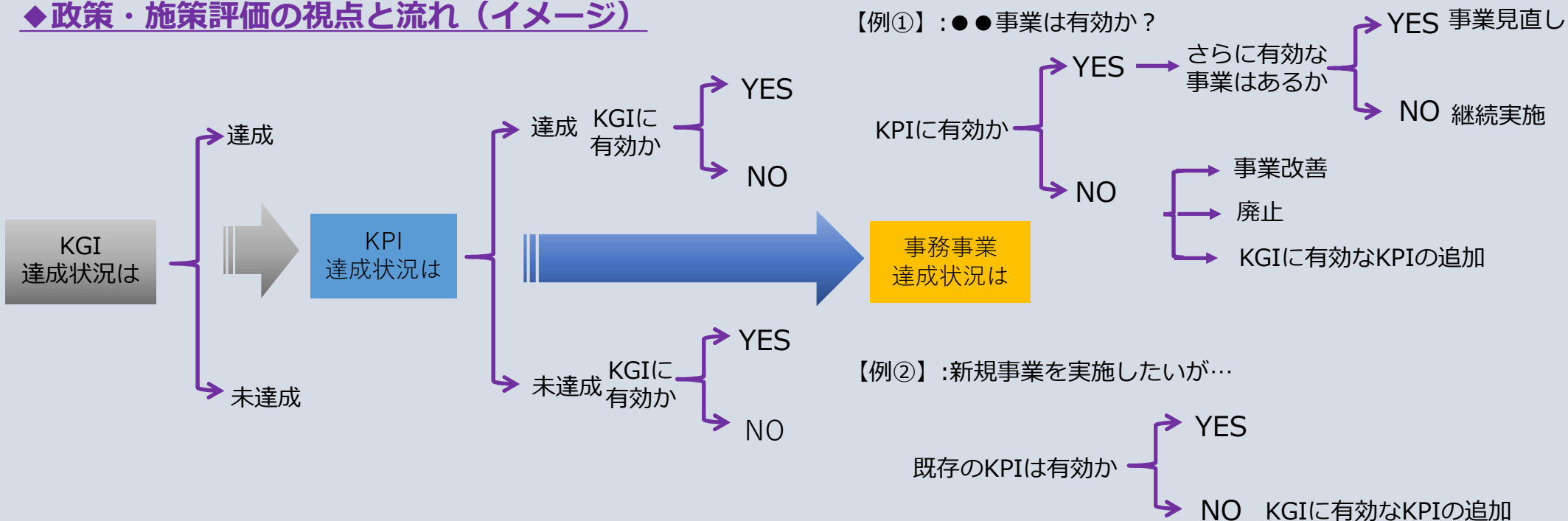


4 政策・施策評価の基本的な考え方

政策・施策評価を行うに当たっては、まずは、**KGIの達成状況**を確認、次にその要因を分析・評価するため、**関係するKPIの達成状況**を確認、**KGIの達成に有効なのか**という視点で評価、最後に**KPIの達成状況**を基に、**事務事業はKPIの達成に有効なのか**という**段階的な視点（政策→施策→事務事業）をもって、評価**していく。

なお、第三次総合計画策定から3年目を迎え、**本市の復興状況、本市を取り巻く社会経済情勢等への変化に対し、適切に対応**していくため、事務事業とKPIとの有効性の関連性をもって、**第三次総合計画前期基本計画の実現に向けて、KPI（118）追加（+）の検討が必要（第4次実施計画（兼：R8年度主要事業）に反映）**。

◆政策・施策評価の視点と流れ（イメージ）





5 政策・施策レベルの評価フロー

5月下旬～

【自己評価】



政策・施策評価シート
第2次（R6）実施計画
事務事業評価

- （1）政策・施策評価シート
担当課において、KGI・
KPIの実績値や要因等を入力する（自己評価）。
- （2）第2次（R6）実施計画
（主要事業）各事務事業の
事業費や成果指標等の実績
値を入力。

6月下旬～

【自己評価結果 の確認・協議】



総合計画評価分科会

政策・施策評価シート及び
達成状況一覧等を基に、自己
評価結果の確認・協議を行う。

設 置：各区部
座 長：次長職
構成員：課長職

各区部として、KGI・KPIの
達成要因や、有効性、今後の
対応等を確認・協議し、場合
によっては、修正等を加える。

7月中旬～

【内部評価】



総合計画評価幹事会
総合計画評価委員会

政策・施策評価シート等を用いて、幹事会及び委員会による内部評価を行う。

- （1）幹事会
座 長：復興企画部長
構成員：企画調整会議
- （2）委員会
座 長：市長
構成員：庁議

8月下旬

【外部評価】



総合計画評価審議会

- ・ 第1回：8/19(火)
- ・ 第2回：8/25(月)

政策・施策の内部評価結果を審議会へ報告し、外部評価を受ける。

外部有識者：20名で構成
（政策の柱1～6、公募委員（一般・移住）枠を基に構成）

政策の柱 1 教育・学び

■ 目指す姿

人は学ぶことで磨かれていきます。誰もが安心して、いつでも、どこでも学べる環境の充実が求められています。

教育水準の向上と、先人から受け継いだ南相馬の自然、歴史・伝統を生かした教育により、こどもの未来を切り拓く力を高めます。

また、人生100年時代において、より心豊かな人生を送ることができるよう、生涯にわたって学ぶことができる環境づくりを推進することにより、誰もが学びたいことを学び続けられるまちを目指します。

KGI (重要目標達成指標)	現状値 (令和4年)	目標値 (令和8年)	①指標の設定理由 ②目標値の考え方
全国学力学習状況調査 (小6、中3)における標準化得点	小6 99 中3 99	小6 103 中3 101	①児童生徒の教育水準の向上が図られているかを評価するため。 ②小6、中3ともに全国トップレベルを目標として設定。 調査における全国平均100、全国トップレベル103。 【全国学力・学習状況調査標準化得点】
学習適応性検査の偏差値	小5 52.4 中2 55.4	小5 55.0 中2 58.0	①魅力ある教育環境づくりが推進されているかを評価するため。 ②現状値は全国平均(50)を上回っているが、更なる向上を目指し、小5は55.0、中2は58.0(現状値からそれぞれ3ポイント程度の向上)を目標値に設定。 【AAI検査(学習適応性検査)の標準得点(偏差値)】
生涯学習の機会の提供に対し「満足」「やや満足」と回答する市民・保護者の割合	38.2%	42.2%	①生涯にわたって学ぶことができる環境づくりが推進されているかを評価するため。 ②過去3年間の平均値に係る直近年度の伸び率年2%の増加を目標として設定。

■ KGI・KPIの達成状況

【前年度実績に対するKGI/KPIの状況：凡例】
上昇等：KGI・KPIが前年度実績に対し上昇、改善傾向であること。
下降等：KGI・KPIが前年度実績に対し現状維持、下降、悪化傾向であること。

政策の柱	KGIの達成状況		達成割合	前年度実績に対するKGIの状況		上昇等割合	基本施策	施策	KPIの達成状況		達成割合	KPIの有効性		有効割合	前年度実績に対するKPIの状況		上昇等割合
	達成	未達成		上昇等	下降等				達成	未達成		有効	非有効		上昇等	下降等	
1 教育・学び	1指標	4指標	20%	1指標	4指標	20%	(1) 学校教育	①豊かな心と体の育成	2指標	6指標	25%	6指標	0指標	100%	7指標	1指標	88%
								②教育水準の向上	0指標	4指標	0%	4指標	0指標	100%	2指標	2指標	50%
								③教育環境の整備	2指標	2指標	50%	4指標	0指標	100%	3指標	1指標	75%
								④児童・生徒の状況に応じた支援の充実	1指標	3指標	25%	4指標	0指標	100%	2指標	2指標	50%
							(2) 生涯学習	⑤生涯学習の充実	4指標	1指標	80%	5指標	0指標	100%	3指標	2指標	60%
								⑥芸術文化の充実	1指標	0指標	100%	1指標	0指標	100%	1指標	0指標	100%
								⑦ジェンダー平等社会の推進	0指標	3指標	0%	3指標	0指標	100%	3指標	0指標	100%
								件数	10指標	19指標	34%	27指標	0指標	100%	21指標	8指標	72%

(参考) 前年度の達成状況

政策の柱	KGIの達成状況		達成割合	R4実績に対するKGIの状況		上昇等割合	基本施策	施策	KPIの達成状況		達成割合	KPIの有効性		有効割合	R4実績に対するKPIの状況		上昇等割合
	達成数	未達成数		上昇等指標数	下降等指標数				達成数	未達成数		有効数	非有効数		上昇等指標数	下降等指標数	
1 教育・学び	2	3	40%	2	3	40%	(1) 学校教育	①豊かな心と体の育成	3	5	38%	8	0	100%	4	4	50%
								②教育水準の向上	1	3	25%	4	0	100%	1	3	25%
								③教育環境の整備	3	1	75%	4	0	100%	3	1	75%
								④児童・生徒の状況に応じた支援の充実	1	3	25%	4	0	100%	1	3	25%
							(2) 生涯学習	⑤生涯学習の充実	4	1	80%	5	0	100%	4	1	80%
								⑥芸術文化の充実	1	0	100%	1	0	100%	1	0	100%
								⑦ジェンダー平等社会の推進	0	3	0%	3	0	100%	2	1	67%
件数								13	16	45%	29	0	100%	16	13	55%	

■ 自己評価結果

指標名	令和4年度 現状値	令和4年度 実績値	令和5年度 目標値	令和5年度 実績値	令和5年度 達成状況	前年度比 上昇・下降	達成率	前年度比率	令和6年度 目標値	令和6年度 実績値	令和6年度 達成状況	前年度比 上昇・下降	達成率	前年度比率	令和7年度 目標値	令和8年度 目標値	担当課	KGI達成状況の要因
全国学力学習状況調査（小6、中3）における標準化得点	小6 99	小6 99	小6 100	小6 99	未達成	下降等	99.0%	100.0%	小6 101	小6 98	未達成	下降等	97.0%	99.0%	小6 102	小6 103	学校教育課	目標値を下回っているが、全国平均を大きく上回る学校や教科によっては全国正答率を上回る学校もあった。課題としては、特に算数の正答数の分布を全国値と比較すると、上位者が少なく中位から下位にかけての層に厚みがある。今後も調査分析の結果から授業改善に取り組めるようにしていく。
	中3 99	中3 99	中3 100	中3 97	未達成	下降等	97.0%	98.0%	中3 100	中3 97	未達成	下降等	97.0%	100.0%	中3 100	中3 101	学校教育課	目標値を下回っている。特に数学に課題があり、正答数の分布を全国値と比較すると、上位者が少なく中位から下位にかけての層に厚みがある。今後も調査分析の結果を踏まえ学校訪問を中心に授業改善に取り組めるようにしていく。
学習適応性検査の偏差値	小5 52.4	小5 52.4	小5 53.0	小5 53.6	達成	上昇等	101.1%	102.3%	小5 53.7	小5 51.7	未達成	下降等	96.3%	96.5%	小5 54.4	小5 55.0	学校教育課	昨年より偏差値は下がっているが、全国平均は上回っている。教育環境づくりにより子どもたちは学校が居心地のよい場所になっているのではないかと結果から推察される。
	中2 55.4	中2 55.4	中2 56.0	中2 56.1	達成	上昇等	100.2%	101.3%	中2 56.7	中2 55.4	未達成	下降等	97.7%	98.8%	中2 57.4	中2 58.0	学校教育課	年々、偏差値は下がってきている。全国平均よりは偏差値が上回っていることから教育環境づくりにより子どもたちは学校が居心地のよい場所になっているのではないかと結果から推察される。
生涯学習の機会への提供に対し「満足」「やや満足」と回答する市民・保護者の割合	38.2%	38.2%	39.2%	32.9%	未達成	下降等	83.9%	86.1%	40.2%	50.0%	達成	上昇等	124.4%	152.0%	41.2%	42.2%	生涯学習課	市民のニーズの把握に努めながら、生涯学習各種事業を進めたことが要因と捉えている。しかし、満足・やや満足の回答割合について、小中学校保護者は6割に対し、一般は2割台で大きな開きがあり、よって、若い世代から高齢者まで幅広い年齢層に対応した各種学習メニューの提供や、ライフスタイルに合わせて学べる生涯学習の環境整備は、引き続き重要な課題である。

令和6年度KGI達成状況の要因分析・令和8年度に向けた課題（総括）

「全国学力学習状況調査（小6、中3）における標準化得点（KGI）」については、前年に比較し小学校で1ポイント下がり、中学校では前年に比し、同じポイントとなっているが、共に目標値を下回っている。基礎的・基本的な内容の定着と授業で学んだ内容の活用が図れるよう、市内全校で取り組んでいる「南相馬市の授業スタイル」を基本に教員の指導力向上、家庭学習の定着と質的・量的な向上に取り組む必要がある。特に、算数・数学については、基礎・基本の定着に加え、学んだことを活用して解くような発展的な課題にも取り組ませられるよう、授業のまとめやふりかえりについての工夫が必要である。

一方で、「学習適応性検査の偏差値（KGI）」については、全国平均は上回っているものの目標値は下回っている。施策②「教育水準の向上」の取組に関しては、令和7年度から開始する国際バカロレアの研究開発校における試行授業を通して双方向・協働型の探究型学習を研究し、その成果を令和8年度以降に他校に展開することにより、市全体で児童生徒の学習意欲の向上を目指していく。あわせて、施策③「教育環境の整備」等の取組については、小中学校とも目標を達成しており、引き続き児童生徒の学習意欲の育成、学力向上につながる教育環境づくりに努めていく。

また、「生涯学習の機会に対し「満足」「やや満足」と回答する市民・保護者の割合（KGI）」については、目標を上回った。これは、市民ニーズの把握に努めながら、生涯学習各種事業を進めたことがその要因と捉えているものの、世代間で生涯学習に対する意識に差があることは否めない。よって、SNSを活用し、特に、若い世代が興味を引く情報発信と若い世代の交流につながるメニューづくりなどが必要である。



■ 現状と課題

グローバル化の進展や技術革新、災害の多発など、こどもたちが歩んでいく将来の社会の姿は不透明な状況です。また、震災と原発事故、新型コロナの影響により、こどもたちの心と体への影響のほか、不登校やいじめなど教育上・学校運営上の課題の顕在化が懸念されるとともに、発達障がいをはじめとする支援が必要な児童生徒が増加しています。

こどもたちがこれからの未来を生きぬく力を育むためには、豊かな心と体の育成に向けた取組を引き続き進めていくとともに、基礎学力の定着と活用力の向上、外国語教育、プログラミング教育の推進など、教育水準の更なる向上と児童生徒の状況に応じた支援を充実し、誰一人取り残さない教育環境の整備が求められています。

また、こどもを巻き込む事故が全国的に発生していることから、地域との連携による登下校時の安全確保の取組や老朽施設・設備の改修など、こどもたちが安全で快適な学校生活を送ることができる環境整備が必要です。

■ KPIの達成状況

基本施策	施策	KPIの達成状況		達成割合	KPIの有効性		有効割合	前年度実績に対するKPIの状況		上昇等割合
		達成	未達成		有効	非有効		上昇等	下降等	
(1) 学校教育	①豊かな心と体の育成	2指標	6指標	25%	6指標	0指標	100%	7指標	1指標	88%
	②教育水準の向上	0指標	4指標	0%	4指標	0指標	100%	2指標	2指標	50%
	③教育環境の整備	2指標	2指標	50%	4指標	0指標	100%	3指標	1指標	75%
	④児童・生徒の状況に応じた支援の充実	1指標	3指標	25%	4指標	0指標	100%	2指標	2指標	50%

(参考) 前年度の達成状況

基本施策	施策	KPIの達成状況		達成割合	KPIの有効性		有効割合	R4実績に対するKPIの状況		上昇等割合
		達成数	未達成数		有効数	非有効数		上昇等指標数	下降等指標数	
(1) 学校教育	①豊かな心と体の育成	3	5	38%	8	0	100%	4	4	50%
	②教育水準の向上	1	3	25%	4	0	100%	1	3	25%
	③教育環境の整備	3	1	75%	4	0	100%	3	1	75%
	④児童・生徒の状況に応じた支援の充実	1	3	25%	4	0	100%	1	3	25%

令和 6 年度の基本施策の評価・令和 8 年度に向けた課題

令和 6 年度は、施策③「教育環境の整備」において、学校・地域・保護者が一体となった学校づくりの推進や、工夫を凝らした学校給食による食育の推進等、施策の各取組により、半数のKPIを達成することができた。

一方で、施策①「豊かな心と体の育成」や施策②「教育水準の向上」においては、新体力テスト・標準学力テストなどにおいて、昨年度よりも実績値は上昇しているものの、目標の達成までには至っておらず、未達成のKPIが目立った。新体力テストでは、小学校 5 年生男子の最下位層が20%を超えていること、標準学力テストでは、算数・数学に課題があることなどが主な要因となっている。

令和 8 年度に向けては、体力・運動能力の向上のため、体力テストの結果を分析し、成果や課題を明らかにした上で、継続して運動に取り組む機会を確保する必要がある。

また、学力向上については、各調査をもとに成果や課題を分析し、各教科において、子ども達が主体的に学びに向かえるよう授業改善を行いながら、児童生徒一人一人に適した指導を行えるようにする必要がある。

施策①豊かな心と体の育成

取組方針

- 郷土を愛し豊かな心を育む教育「至誠（まごころ）学」を推進します。
- 様々な側面から生命の尊さについての考えを深める道德教育を推進します。
- 運動の習慣化や正しい食生活を身に付け、健康な体を育む教育の推進を図ります。

主な取組例

- 計画的・発展的な道德教育の充実
- 報徳仕法等の郷土学習の実施
- 体力・運動能力向上の取組
- 食育の推進
- 情報モラル教育の充実

■ 自己評価結果

指標名	令和4年度 現状値	令和4年度 実績値	令和5年度 目標値	令和5年度 実績値	令和5年度 達成状況	前年度比 上昇・下落	達成率	前年度比率	令和6年度 目標値	令和6年度 実績値	令和6年度 達成状況	前年度比 上昇・下落	達成率	前年度比率	令和7年度 目標値	令和8年度 目標値	担当課	KPI達成状況の要因	KPI達成状況の 評価	R8年度に向けた 施策の対応方針	R8年度に向けた施策の 対応方針の具体案
新体力テストの結果について、上位2段階(A、B)評価の児童生徒の割合	小5 40.9%	小5 35.8%	小5 41.7%	小5 30.3%	未達成	下降等	72.7%	84.6%	小5 42.5%	小5 32.9%	未達成	上昇等	77.4%	108.6%	小5 43.3%	小5 44.0%	学校 教育課	目標値は下回ったが、昨年度より実績値が上昇している。女子は全国平均とほぼ同じ値となっているが、男子は、全国、県よりもやや低い。上位層が少なく、最下位層（D評価）の割合が20%を超えている。	有効である	現状の取組を維持する	今後も目標達成のため、「運動身体づくりプログラム」を授業の中に積極的に取り入れたり、学校行事等の充実を図ったりするなど運動の機会を確保し、体力、運動能力の向上に向けた取組を行う。また、各小中学校の状況に応じて徒歩による登下校を奨励していく。
	中2 45.4%	中2 29.3%	中2 46.8%	中2 38.1%	未達成	上昇等	81.4%	130.0%	中2 48.2%	中2 41.7%	未達成	上昇等	86.5%	109.4%	中2 49.6%	中2 51.0%	学校 教育課	目標値は下回ったが、年々実績値が上昇している。総合評価では、男女とも全国、県の平均よりやや低い値となっている。A評価が少ないが、E評価も少なく、中間層が多い状態である。男女とも柔軟性の項目が低いので、柔軟性を高める活動をもく行っていく。			
「南相馬市の自慢できるところ」や「好きなところ」について「ある」「少しある」と回答する児童生徒の割合	小5 59.6%	小5 59.6%	小5 64.0%	小5 65.3%	達成	上昇等	102.0%	109.6%	小5 68.0%	小5 72.5%	達成	上昇等	106.6%	111.0%	小5 73.0%	小5 75.0%	学校 教育課	道德教育や「至誠（まごころ）学」の実施により、郷土の歴史や文化、自然に対する興味や理解が深まり、目標をクリアすることができた。	有効である	現状の取組を維持する	今後も目標達成のため、学校教育活動全体を通して、「郷土愛」の指導に重点をおいた教育や「ふるさと至誠学」の充実を図る。また、生涯学習課の「地域学校学校協働活動事業」や「中学生職場体験等支援事業」を通した連携を図り、地域やそこで働く人々のよさについて体験的に学ぶ機会を充実させる。
	中2 50.0%	中2 50%	中2 54.0%	中2 57.6%	達成	上昇等	106.7%	115.2%	中2 58.0%	中2 57.8%	未達成	上昇等	99.7%	100.3%	中2 63.0%	中2 65.0%	学校 教育課	道德教育や「至誠（まごころ）学」、職場体験などの実施により、郷土の歴史や文化、地域で活躍する人々の思いや願いについての理解が深まり、目標に近づけることができた。			
相手の気持ちを考え、やさしい言葉づかいができている児童生徒の割合	小5 83.8%	小5 83.8%	小5 85.3%	小5 89.1%	達成	上昇等	104.5%	106.3%	小5 86.8%	小5 91.3%	達成	上昇等	105.2%	102.5%	小5 88.3%	小5 90.0%	学校 教育課	目標値を達成できている。道德教育を中心に各学校において心の教育に取り組んでいる結果が出ている。今後も様々な体験活動を行うことで、思いやりや親切、人権の尊重などの育成を図っていく。	有効である	現状の取組を維持する	道徳科の授業を要として、学校教育全体で行う道德教育の充実を図り、親切や思いやり、人権の尊重に関わる内容について、発達段階に応じて系統的に指導していく。また、外部指導者等による専門的な学習の機会を積極的に取り入れていく。
	中2 92.5%	中2 92.5%	中2 93.2%	中2 92.5%	未達成	下降等	99.2%	100.0%	中2 93.9%	中2 88.3%	未達成	下降等	94.0%	95.5%	中2 94.5%	中2 95.0%	学校 教育課	目標値は下回っているが、9.0%以上の高い水準を維持している。道德教育を中心に各学校において心の教育に取り組んでいる結果が出ている。			
朝食を食べる児童生徒の割合	小 88.0%	小 85.0%	小 89.0%	小 84.1%	未達成	下降等	94.5%	98.9%	小 90.0%	小 86.0%	未達成	上昇等	95.6%	102.3%	小 91.0%	小 92.0%	学校 教育課	目標値は下回っているが、毎日朝食を食べる児童の割合が昨年度より増加している。学年が上がるにつれて摂食率が低くなっているため、家庭との連携も図りながら、食育を通して朝食をとることの重要性を高めていく。	有効である	現状の取組を維持する	今後も目標達成のため、栄養教室等の食育を通し、望ましい食生活への取組を継続しながら計画を推進する。また、「早寝・早起き・朝ごはん」など家庭教育の大切さについて、学校からの発信はもちろん、生涯学習課の「家庭教育講座」などを通して、保護者への理解と協力を図る。
	中 80.0%	中 80.0%	中 81.0%	中 77.2%	未達成	下降等	95.3%	96.5%	中 82.0%	中 79.4%	未達成	上昇等	96.8%	102.8%	中 83.0%	中 84.0%	学校 教育課	目標値は下回っているが、毎日朝食を食べる生徒が昨年度より増加している。朝食を食べる習慣は心の健康と関係しているという研究結果から、不登校や生活習慣の乱れを改善するために、食育の充実を図っていく。			

令和6年度の施策全体の評価

郷土愛については、道德や総合的な学習の時間等を活用し、「至誠（まごころ）学」を推進したことにより、南相馬市についての理解が深まり、南相馬市の良さを実感する児童生徒が増えている。

他人を思いやることの大切さについては、道德教育を中心に一人ひとりの個性や価値観を認め、尊重し合えるように取組を行っているが、引き続き、人権を尊重する力を育む必要がある。

保健指導や食育などを通して望ましい生活習慣や食生活への理解を図るとともに、保護者への協力を呼びかける必要がある。また、運動機会の確保を図り、体力・運動能力の向上が必要である。

令和8年度の施策の取組方針・主な取組例の考え方

「心」の育成については、総合的な学習の時間を中心に郷土についての探究的・体験的な学習を推進し、「ふるさと至誠学」の充実を図る。その際、全ての小中学校において、「野馬追」「報徳仕法」「震災・復興」について学び、学んだことを発表する機会をととして、南相馬市の歴史や文化、復興や産業などを理解する機会とし、郷土愛の育成につなげる。また、道徳科の授業を通して、親切や思いやり、人権の尊重など、発達段階に応じて系統的に指導していく。

「体」の育成については、健康的な体づくりや食習慣に関する指導・助言を行うなど、発達段階に応じた指導を行うとともに、生涯学習課などと連携し、家庭教育の充実を図る。

施策②教育水準の向上

取組方針

- 基礎学力の定着と活用力の向上を推進します。
- 学習意欲を高める魅力ある教育環境づくりに取り組みます。
- こどもの読書活動と調べ学習を推進します。
- 進学を推進するための支援に取り組みます。

主な取組例

- 学力の実態把握や授業の改善
- 市独自教員の採用
- 一人1台のタブレット等を活用したデジタル学習の推進
- 中学生の海外研修の継続と、多様な文化や価値観への理解を醸成する体験プログラムの提供
- 公立学校適正化計画の推進
- 福島国際研究教育機構（F-REI）等との連携による次世代人材の育成
- 小高区の文教ゾーンを生かした魅力ある教育環境の整備

■自己評価結果

指標名	令和4年度 現状値	令和4年度 実績値	令和5年度 目標値	令和5年度 実績値	令和5年度 達成状況	前年度比 上昇・下降	達成率	前年度比率	令和6年度 目標値	令和6年度 実績値	令和6年度 達成状況	前年度比 上昇・下降	達成率	前年度比率	令和7年度 目標値	令和8年度 目標値	担当課	KPI達成状況の要因	KPI達成状況の 評価	R8年度に向けた 施策の対応方針	R8年度に向けた施策の 対応方針の具体案
学習の意欲が高い 児童生徒の割合	小5 43.0%	小5 43.0%	小5 47.0%	小5 41.0%	未達成	下降等	87.2%	95.3%	小5 51.0%	小5 35%	未達成	下降等	68.6%	85.4%	小5 56.0%	小5 60.0%	学校 教育課	昨年度の実績値を下回り、目標値にも達していない。学習意欲の向上が図られるよう、「解いてみたい・やってみたい」と思えるような課題の提示や「わかる・できる」授業への改善を図る。	有効である	現状の取組 を維持する	「授業改善プラン」や「南相馬の授業スタイル」について、研修の充実を図り、各学校、全ての教職員へ周知しながら、児童生徒の学習意欲を高められるような授業、学校環境改善に今後も取り組んでいく。
	中2 51.0%	中2 51.0%	中2 53.0%	中2 53.0%	達成	上昇等	100.0%	103.9%	中2 55.0%	中2 52%	未達成	下降等	94.5%	98.1%	中2 58.0%	中2 60.0%	学校 教育課	目標値を下回っているため、今後も学習意欲の向上が図られるよう「解いてみたい・やってみたい」と思えるような課題の提示や「わかる・できる」授業への改善を図る。			
標準学力調査における平均正答率	小5 69.0%	小5 68.0%	小5 69.7%	小5 66.3%	未達成	下降等	95.1%	97.5%	小5 70.5%	小5 66.9%	未達成	上昇等	94.9%	100.9%	小5 71.3%	小5 72.0%	学校 教育課	正答率は上がっているが、目標値には届いていない。「全国学力・学習状況調査」同様、分析を行い、今後の授業改善等に生かせるようにしていく。	有効である	現状の取組 を維持する	本調査は、客観的で標準化された調査であり、児童生徒の学力を知る上で大切な資料になるため継続して取り組んでいく。教育委員会、各学校で、しっかり分析することで各教科の授業の質的向上、指導改善に生かしていく。
	中2 62.2%	中2 58.1%	中2 62.6%	中2 57.1%	未達成	下降等	91.2%	98.3%	中2 63.1%	中2 59%	未達成	上昇等	93.5%	103.3%	中2 63.6%	中2 64.0%	学校 教育課	正答率は上がっているが、目標値には届いていない。「全国学力学習状況調査」同様、分析を行い、今後の授業改善等に生かせるようにしていく。			

令和6年度の施策全体の評価

学習の意欲については、小・中学校共に目標値を下回った。小学5年生は「好きになれない教科がある」、中学2年生は「授業がよくわからない」ことなどが原因で、自分のペースで学習を進められない児童生徒が多いため、学習意欲が高まらないと思われる。

標準学力調査の平均正答率については、小学5年生、中学2年生共に昨年度よりも若干上昇しているが、目標値を達成することができなかった。「南相馬市の授業スタイル」による授業改善を継続し、教職員の指導力の向上を図るとともに、基礎・基本の定着と学んだことを活用する力の向上を図っていくことが必要である。

令和8年度の施策の取組方針・主な取組例の考え方

標準学力調査等の分析を踏まえ、教員の指導力向上、家庭等での学習の充実など、児童生徒の学習意欲を高める取組を進める。

また、アンケートにおいて児童生徒が授業に対して何が楽しくて何が分からないのかなど、分析を行い、授業の改善につなげていきたい。アンケートの内容や形態については精査しながら、市全体として授業力の向上を行う。

さらに、学力調査については、「全国学力学習状況調査」「ふくしま学力調査」「市学力調査」があるので、それぞれの調査結果から、各教科の実態、成果や課題を明確にし、市全体で共有し指導改善に生かす。また、それぞれの調査結果を各校で分析し、自校の課題を明確にした上で個に応じた指導について創意工夫を図っていく。

なお、国際バカロレアの研究開発校で行う試行授業を通して、双方向・協働型の探究型学習を学習意欲の向上につなげる方法の研究を行う。

施策③教育環境の整備

取組方針

- 地域と連携した登下校時の安全確保や安全な通学手段の確保と、安全教育を推進します。
- 学校施設の安全で快適な環境整備・改善に取り組みます。
- 学校・地域・保護者が一体となった学校づくりを推進します。
- 安全・安心な学校給食の安定的な提供体制を整備します。

主な取組例

- 通学路等の安全点検の実施
- 通学バスの運行等通学手段の確保
- 老朽化施設・設備の改修
- コミュニティ・スクールの導入
- 学校給食提供体制の整備

■ 自己評価結果

指標名	令和4年度 現状値	令和4年度 実績値	令和5年度 目標値	令和5年度 実績値	令和5年度 達成状況	前年度比 上昇・下降	達成率	前年度比率	令和6年度 目標値	令和6年度 実績値	令和6年度 達成状況	前年度比 上昇・下降	達成率	前年度比率	令和7年度 目標値	令和8年度 目標値	担当課	KPI達成状況の要因	KPI達成状況の 評価	R8年度に向けた 施策の対応方針	R8年度に向けた施策の 対応方針の具体案
学校に行くのが楽しいと回答する児童生徒の割合 (小5、中2)	小5 93.0%	小5 93.0%	小5 94.0%	小5 95%	達成	上昇等	101.1%	102.2%	小5 94.0%	小5 91%	未達成	下降等	96.8%	95.8%	小5 94.0%	小5 95.0%	学校 教育課	小学校に関しては、目標値を下回っているが、高い水準のままである。子どもたちにとって、学校が楽しい場所であり続けるために今後も教育環境の確保に努めたい。 目標値は下回っているが、毎年度少しずつ割合は上昇している。引き続き今後も、中学生が安心して楽しく学校生活を送れるよう、教育環境の整備を継続していく。	有効である	現状の取組を維持する	今後も目標達成のために、子どもたちが安心して学校生活が送れるよう、学習面や生活面において、子どもたち一人一人のニーズに応じた支援体制を工夫していく。
	中2 76.0%	中2 76.0%	中2 78.0%	中2 79%	達成	上昇等	101.3%	103.9%	中2 81.0%	中2 80%	未達成	上昇等	98.8%	101.3%	中2 83.0%	中2 85.0%	学校 教育課				
小中学校の施設・設備の整備について「満足」「やや満足」と回答する保護者の割合	59.1%	59.1%	60.0%	59.0%	未達成	下降等	98.3%	99.8%	61.0%	71.4%	達成	上昇等	117.0%	121.0%	62.0%	63.0%	教育 総務課	市内小中学校が昭和40年代から50年代にかけて建築されたものが多く学校施設の老朽化により、施設の不具合が生じる場合もあるものの、修繕等が必要になった場合には速やかに対応を行い、教育活動に影響が生じないように取り組んでいる。	有効である	現状の取組を維持する	今後も目標達成のため、各小中学校からの要望や現場確認を行い、教育環境の充実にに向けた環境整備を行っていく。
学校給食における市産品の使用率	44.9%	44.9%	46.0%	47.2%	達成	上昇等	102.6%	105.1%	47.0%	48.8%	達成	上昇等	103.9%	103.5%	48.0%	50.0%	学校 教育課	市産品については、契約農家や市場から収穫状況等についての情報を常に確認し、使用できる産品は積極的に使用していることが要因と捉えている。	有効である	現状の取組を維持する	今後も目標達成のため、市産品の情報収集等の取組を継続し、計画を推進する。

令和6年度の施策全体の評価

「学校に行くのが楽しいと回答する児童生徒の割合」について、割合は高いもののわずかに目標に達していない。しかし、それ以外の指標については目標を達成しており、教育環境の整備が進んでいるととらえることができる。

学校給食における市産品の活用については、年々上昇しており、工夫を凝らしたメニューなどにより充実した学校給食の提供と食育の充実の成果が表れている。

老朽化施設及び設備の改修については、随時各学校からの要望に対応しているため、目標値を上回ることができた。

令和8年度の施策の取組方針・主な取組例の考え方

学校が楽しい場であり続けるために、児童生徒の安心できる居場所となる魅力的な学校運営、安全・安心な教育環境の整備を進めていく。

安全快適な学校生活を送ることができるよう、これまでどおり、施設設備の不具合等の修繕については、適宜迅速に対応を行っていく。

地域ぐるみでこどもを育む取組として実施している「地域学校協働活動事業」との一体的な推進による相乗効果を目指し、コミュニティ・スクールの導入に向けた取組を進める。

給食については、市産品の活用の可能性を探りながら地産地消の拡大を図ると共に、給食提供体制を整え、新鮮で安定した食材の確保を図り、安全・安心で美味しい学校給食の提供に努める。

施策④ 児童・生徒の状況に応じた支援の充実

取組方針

- 不登校・いじめ未然防止へ積極的に対応します。
- 震災と原発事故の影響による家庭環境等の問題を抱える児童生徒へ心のケア等、積極的に対応します
- 一人ひとりの状況に応じた就学・学習支援を推進します。

主な取組例

- いじめ問題への積極的な対応
- スクールカウンセラーの配置
- 就学指導アドバイザーの配置拡充
- 適応指導教室の運営
- 学習支援員・介助員の配置拡充

■ 自己評価結果

指標名	令和4年度 現状値	令和4年度 実績値	令和5年度 目標値	令和5年度 実績値	令和5年度 達成状況	前年度比 上昇・下降	達成率	前年度比率	令和6年度 目標値	令和6年度 実績値	令和6年度 達成状況	前年度比 上昇・下降	達成率	前年度比率	令和7年度 目標値	令和8年度 目標値	担当課	KPI達成状況の要因	KPI達成状況の 評価	R8年度に向けた 施策の対応方針	R8年度に向けた施策の 対応方針の具体案
不登校児童・生徒 の割合	小 0.84%	小 0.68%	小 0.83%	小 2.13%	未達成	下降等	39.0%	31.9%	小 0.82%	小 2.43%	未達成	下降等	33.7%	87.7%	小 0.81%	小 0.80%	学校 教育課	コロナ禍による生活環境や学校教育の環境が変化に十分な対応ができず、学校不 適応を起こす児童の増加及び、児童や 保護者の「無理せずに休もう」という考え が「学校登校」にこだわらないという考えが 広がっているためと考えられる。	有効である	現状の取組 を維持する	・チーム学校による多くの教職員による見 守りや児童生徒の不調や悩みなどに対す る早期発見ときめ細やかな対応 ・学習支援員・介助員の配置による一人 一人に寄り添った学習支援 ・学校スクールカウンセラーの配置による専 門家による相談体制の整備 ・学校教育支援センター（やすらぎ広 場）の活用による一人一人の発達特性 に応じた支援体制の強化と居場所づくり
	中 2.76%	中 3.49%	中 2.60%	中 5.55%	未達成	下降等	46.8%	62.9%	中 2.50%	中 7.23%	未達成	下降等	34.6%	76.8%	中 2.40%	中 2.30%	学校 教育課	コロナ禍による生活環境や学校教育の環境が変化に十分な対応ができず、学校不 適応を起こす児童の増加及び、生徒や 保護者の「無理せずに休もう」という考え が「学校登校」にこだわらないという考えが 広がっているためと考えられる。			
学級生活に満足し ている児童生徒の 割合	小5 73.8%	小5 73.8%	小5 75.3%	小5 67%	未達成	下降等	89.0%	90.8%	小5 76.9%	小5 71%	未達成	上昇等	92.3%	106.0%	小5 78.4%	小5 80.0%	学校 教育課	目標値に6%足りていない。学校に行くの は楽しい児童が91%だが、満足の度合い は低い。ただ、全国平均43%に比べると 高い。データを各校において分析し、児童 の支援に活用する。	有効である	現状の取組 を維持する	・いじめを許さない学級、学校づくりの実現 に向けた道徳教育の充実と保護者、地 域住民、関係機関との連携 ・学習支援員、介助員等の配置による学 習面や生活面における、子どもたち一人 一人のニーズに応じた支援の充実 ・スクールカウンセラーの配置による児童生 徒、保護者、教員等に対する相談体制 の整備
	中2 52.0%	中2 52.0%	中2 55.3%	中2 59%	達成	上昇等	106.7%	113.5%	中2 58.5%	中2 62%	達成	上昇等	106.0%	105.1%	中2 61.8%	中2 65.0%	学校 教育課	目標値を約4%オーバーしている。今後も 学級が居場所となるよう、学級生活の充 実を図りながら、個に寄り添ったきめ細や かな支援を継続していく。			

令和6年度の施策全体の評価

不登校については、これまでも複数の教職員やカウンセラー等で児童生徒の様子を見守り、不安や悩みの相談に応じるなどの対応をしているが、生活環境や学校教育環境の変化に適応することができず、不登校になるケースや、学校への登校について保護者の考え方の変化により不登校になるケースがある。

学級生活に満足している児童生徒の割合については、全国平均と比較すると高い傾向にあるものの、小学5年生については、目標値を下回った。

令和8年度の施策の取組方針・主な取組例の考え方

学習支援員や介助員などを活用し、児童生徒一人ひとりに寄り添いながら、それぞれの状況に応じた学習や生活の支援を図り、学校生活を楽しく過ごし、健やかに成長できる環境の整備に取り組む。

また、いじめを許さない学級・学校づくりを基本方針に掲げ、いじめの早期発見、早期対応、早期解決につなげられるよう、児童生徒、保護者、各関係機関との連携を図りながら組織的に取り組むようにする。

さらに、学校生活になじめず不登校傾向のある児童生徒に対しては、安心できる居場所や学びの場として、スペシャルサポートルームや教育支援センター、ICTの活用によりリモート授業なども選択肢として提案し、児童生徒の学びを保障することのできる体制を整える。

■現状と課題

生涯学習については、多様化するニーズ等を踏まえ、みなみそうまチャンネルとインターネットによる生涯学習講座の配信など、子育て世代・青壮年層をはじめ、生涯学習に興味を持つすべての市民が、いつでもどこでも気軽に学べる環境を整備することが必要です。

また、図書館や博物館等の充実をより一層図るとともに、地域の文化遺産の保護や、歴史・民俗資料等の適切な収集と保存、デジタルデータの公開等の多様な資料活用が必要です。

芸術文化関連では、新型コロナの影響もあり、市民が芸術文化に触れる機会が減少しています。市民が身近に芸術文化に触れることができる環境づくりや、芸術文化の普及を行う芸術文化協会への市民の加入促進が必要です。

また、近年は性別に関わらず、すべての人がその個性と能力を発揮できる社会の実現が求められています。本市では、人権を尊重し合いながら、あらゆる人がのびのびと能力を発揮できるジェンダー平等社会づくりに向け、地域や家庭、職場への広報・啓発活動を推進するとともに、相談・支援体制の構築が必要です。

■KPIの達成状況

基本施策	施策	KPIの達成状況		達成割合	KPIの有効性		有効割合	前年度実績に対するKPIの状況		上昇等割合
		達成	未達成		有効	非有効		上昇等	下降等	
(2) 生涯学習	⑤生涯学習の充実	4指標	1指標	80%	5指標	0指標	100%	3指標	2指標	60%
	⑥芸術文化の充実	1指標	0指標	100%	1指標	0指標	100%	1指標	0指標	100%
	⑦ジェンダー平等社会の推進	0指標	3指標	0%	3指標	0指標	100%	3指標	0指標	100%

(参考) 前年度の達成状況

基本施策	施策	KPIの達成状況		達成割合	KPIの有効性		有効割合	R4実績に対するKPIの状況		上昇等割合
		達成数	未達成数		有効数	非有効数		上昇等指標数	下降等指標数	
(2) 生涯学習	⑤生涯学習の充実	4	1	80%	5	0	100%	4	1	80%
	⑥芸術文化の充実	1	0	100%	1	0	100%	1	0	100%
	⑦ジェンダー平等社会の推進	0	3	0%	3	0	100%	2	1	67%

令和6年度の基本施策の評価・令和8年度に向けた課題

令和6年度は、施策⑤「生涯学習の充実」と施策⑥「芸術文化の充実」では、市民ニーズの把握に努めながら生涯学習各種事業を進めたことと、新型コロナ禍での活動制限が終了し、芸術文化活動の再開などを要因とし、ほとんどのKPIを達成することができた。

その一方、施策⑦「ジェンダー平等社会の推進」については、3つのKPIは令和5年度より改善しているものの、育休取得対象となる男性職員について、業務の困難性等により取得困難な職員がいたことと、市審議会等における女性登用率が大きく改善していないため、KPIの達成には至っていない。ただし、男性職員の育休については、取得する職員が増え、本人と職場も「取得するもの」という意識が醸成されている。

令和8年度に向けた課題については、施策⑤「生涯学習の充実」については、多様な世代のニーズを捉えた事業づくり、特に若い世代が参加できる事業づくり、施策⑥「芸術文化の充実」については、芸術文化活動団体への加入促進と組織力の強化、施策⑦「ジェンダー平等の推進」については、南相馬市人権条例の理念に基づくパートナーシップ・ファミリーシップ宣誓制度に対する市民の理解促進と、全庁あげて男女共同参画社会の啓発に取り組む必要がある。

施策⑤生涯学習の充実

取組方針

- 市民が生涯にわたって、学ぶことができる環境を整備し、生涯学習機会の充実を図るとともに、報徳精神の実践を推進します。
- 歴史・民俗資料等の適切な収集・保存・活用を進め、博物館の企画・展示の充実と積極的な情報発信を図ります。
- 読書活動の推進と多様な分類・分野の図書館資料の整備・充実を図ります。

主な取組例

- 報徳仕法を含めた各種講座や教室、市民ボランティア等による出前講座の実施と動画配信
- 文化遺産（史跡浦尻貝塚、泉宮衙遺跡等）や歴史・民俗資料等の適切な保存環境の整備
- 多様な世代ニーズに対応した博物館講座、体験学習等の開催
- 図書館利用の促進と移動図書館の実施
- 障がい者や外国人に対応した図書資料の整備

自己評価結果

指標名	令和4年度 現状値	令和4年度 実績値	令和5年度 目標値	令和5年度 実績値	令和5年度 達成状況	前年度比 上昇・下降	達成率	前年度比率	令和6年度 目標値	令和6年度 実績値	令和6年度 達成状況	前年度比 上昇・下降	達成率	前年度比率	令和7年度 目標値	令和8年度 目標値	担当課	KPI達成状況の要因	KPI達成状況の 評価	R8年度に向けた 施策の対応方針	R8年度に向けた施策の 対応方針の具体案
生涯学習関連事業 の延べ参加者数	8,093人	11,039人	12,000人	13,170人	達成	上昇等	109.8%	119.3%	12,100人	14,111人	達成	上昇等	116.6%	107.1%	12,200人	12,300人	生涯 学習課	令和6年度実績値のうち、出前講座の参加者が61%（8,572人）を占めている。令和5年度現状値との比較では941人増であり、コロナ禍を契機に、学びたいニーズを自ら選び、身近な環境で学習できる出前講座を利用する団体等が増えていることが要因である。	有効である	現状の取組を維持する	生涯学習センター講座等の参加者に大きな伸びが見られない（R3:4,840人→R6:5,539人）。特に、若い世代の参加率が少なく、より幅広い年齢層が興味・関心をひく学習メニューの提供や、ライフスタイルに合わせいつでも学べる生涯学習環境の整備などに取り組む。
YouTube「生涯 学習チャンネル」再 生回数	51,000回	53,805回	55,100回	55,900回	達成	上昇等	101.5%	103.9%	59,400回	68,700回	達成	上昇等	115.7%	122.9%	64,200回	69,200回	生涯 学習課	目標達成という状況を見れば、Youtube「生涯学習チャンネル」は、市民に徐々に浸透していると捉えているが、知らない市民が多いのが事実であり、また、再生回数に偏りが見られる。市民への学習機会のさらなる提供に向け、市民のチャンネル認知度の向上と、内容の充実に取り組む必要がある。	有効である	現状の取組を維持する	時間や場所の制限により、生涯学習センターでの対面講座に参加できないが、学びたいと考えている層のニーズに一定程度マッチしていると捉えている。今後も番組の周知・啓発を行いながら内容の充実に取り組むなど取組を推進する。
図書館の入館者数	166,369人	199,954人	188,000人	206,838人	達成	上昇等	110.0%	103.4%	201,000人	211,593人	達成	上昇等	105.3%	102.3%	215,000人	230,000人	中央 図書館	市民のニーズに応え図書館資料の充実を図ったこと、図書館の利用促進のための様々なイベント等を行ったことなどが入館者の増加につながったものと捉えている。	有効である	現状の取組を維持する	今後も目標達成のため、新規の利用者増に向けた情報発信や利用促進イベントの開催等により来館者増に取り組む。
市民一人当たりの 図書の年間貸出冊 数	6.61冊	6.89冊	7.14冊	6.76冊	未達成	下降等	94.7%	98.1%	7.42冊	6.67冊	未達成	下降等	89.9%	98.7%	7.64冊	7.86冊	中央 図書館	令和6年度は故障した空調設備の更新工事を行い、工事期間中に館内の一部のエリアを安全性を考慮し立ち入り禁止としたことにより、一部の棚の本が貸出しできなかったことから中央図書館の貸出冊数は減少したものの、移動図書館については毎年増加傾向にある。また、図書の貸出しに必要な利用者カードの登録増加に向けて、未登録者に対して登録推進の取組みを進めており、令和6年度は930人の新規登録があった。	有効である	現状の取組を維持する	目標達成に向け、図書館の利用者増のための取り組みと併せて、市民のニーズに合わせた図書資料の一層の充実を図る。
博物館の利用者数	8,426人	9,338人	8,800人	12,329人	達成	上昇等	140.1%	132.0%	9,400人	11,904人	達成	下降等	126.6%	96.6%	10,000人	10,600人	文化財課	企画展のテーマとして、現在人気が高い縄文時代を取り上げたことや、“博物館における近代彫刻展”という新たな試みを行ったことにより、新たな層の観覧者数が増加したとともに、それらの企画展関連講座の参加者数も多く、利用者数全体の底上げがなされた。また、博物館SNSアカウントの投稿を40件以上増加させたことも、利用者数増に貢献したと思われる。	有効である	現状の取組を維持する	KGI及びKPI達成のため、多様な世代ニーズに適した企画展の開催をはじめ、講座・体験活動の充実や各事業のSNS等を活用した周知促進に取り組む。

令和6年度の施策全体の評価	令和8年度の施策の取組方針・主な取組例の考え方
<p>KGIは達成し、KPIも5指標中4指標が達成していることから、事業は市民ニーズの把握に努めながら、概ね順調に実施された。</p> <p>しかし、人生100年時代を迎えており、幅広い世代に対応した事業や、ライフスタイルに合わせて学べる生涯学習環境の整備が必要である。</p>	<p>生涯学習関連事業については、博物館・図書館を含め、多様な世代のニーズに対応していくことが課題となっている。講座等イベントの参加状況や利用状況を踏まえ、事業の見直しや新規事業の開催に取り組む。</p> <p>また、より広く周知するために、SNS等情報発信のあり方についても改善を図るほか、生涯学習課、文化財課、図書館が連携し、各課・各館の効果的な事業運営を行い、市民の生涯学習機会の充実を図り、市民が集い、交流する場の機能を発揮していく。</p>

施策⑥芸術文化の充実

取組方針

- 身近に芸術文化に触れることのできる環境づくりと、創作する機会の創出を推進します。
- 芸術文化活動団体への加入促進と組織力強化の取組を支援するとともに、芸術文化活動の充実を図ります。

主な取組例

- 文化芸術等イベントの開催
- 各種団体や個人の活動支援

■自己評価結果

指標名	令和4年度 現状値	令和4年度 実績値	令和5年度 目標値	令和5年度 実績値	令和5年度 達成状況	前年度比 上昇・下降	達成率	前年度比率	令和6年度 目標値	令和6年度 実績値	令和6年度 達成状況	前年度比 上昇・下降	達成率	前年度比率	令和7年度 目標値	令和8年度 目標値	担当課	KPI達成状況の要因	KPI達成状況の 評価	R8年度に向けた 施策の対応方針	R8年度に向けた施策の 対応方針の具体案
芸術イベントの 開催件数	39件	43件	45件	50件	達成	上昇等	111.1%	116.3%	49件	51件	達成	上昇等	104.1%	102.0%	53件	57件	生涯 学習課	新型コロナが5類に移行したことにより、活動を制限していた団体等がイベントを再開した結果、開催件数が増加したため。	有効である	現状の取組 を維持する	令和3年度と比較し、市芸術文化協会の加盟団体数・会員数とも減少し、また、高齢化している（加盟団体数：R3・65→R7・47 会員数：R3・988→R7・841）。芸術文化の充実に向け、各種団体や個人の活動支援に取り組み、芸術に勤しむ市民の増加に努める。

令和6年度の施策全体の評価

新型コロナ禍での活動制限が終了し、芸術文化団体等が各種活動を再開し、市総合美術展覧会も通常開催となり、市民が芸術文化に触れる機会が少しずつ増え、創作意欲の向上につながっている。また4年目を迎えた文化芸術ふれあい事業「AIR」では、小高区のイベントに合わせて事業のPRと市民とのふれ合い企画を行うなど、「身近に芸術文化に触れることのできる環境づくりと、創作する機会の創出」に取り組んだ。

しかし、南相馬市芸術文化協会については、これまで活動を休止していた小高支部が活動を再開するなど、明るい動きはあったものの、加盟団体数・会員数の減少と、会員の高齢化は改善しておらず、KPIは達成したものの、芸術文化活動団体への加入促進と組織力強化に結びついていないという状況である。

令和8年度の施策の取組方針・主な取組例の考え方

市総合美術展覧会と文化芸術ふれあい事業を柱とした文化芸術等イベントの開催と、市の補助支援制度の周知・活用による各種団体や個人の活動支援に取り組む。

こうした取り組みを進め、芸術文化に興味を持ち、実際に勤しむ市民の増加を図り、芸術文化活動団体への加入促進と組織力強化につなげていく。

また、地域の芸術文化の振興と地域に根ざした芸術文化の拠点づくりのため、ゆめはつとの良好な管理運営を行っていく。

施策⑦ジェンダー平等社会の推進

取組方針

- 男女双方の視点から施策を実施するために、あらゆる分野への男女の参画拡大を啓発します。
- 講演会の開催や情報誌の発行等により、ダイバーシティ（多様性）とインクルージョン（受容）社会の意識醸成を図ります。
- DVやセクシュアル・ハラスメント等の重大な人権侵害の根絶を図るため、広報・啓発や相談体制の構築、関係機関との連携協力体制の整備を進めます。

主な取組例

- 市の附属機関等における女性委員の登用推進
- 男女共同参画に関する講演会・学習会等の開催
- DVやセクシュアル・ハラスメント等防止に向けた広報啓発
- 各種相談・支援体制の構築

■自己評価結果

指標名	令和4年度 現状値	令和4年度 実績値	令和5年度 目標値	令和5年度 実績値	令和5年度 達成状況	前年度比 上昇・下降	達成率	前年度比率	令和6年度 目標値	令和6年度 実績値	令和6年度 達成状況	前年度比 上昇・下降	達成率	前年度比率	令和7年度 目標値	令和8年度 目標値	担当課	KPI達成状況の要因	KPI達成状況の 評価	R8年度に向けた 施策の対応方針	R8年度に向けた施策の 対応方針の具体案
男性職員の 育休取得	50.0%	50.0%	100%	60.0%	未達成	上昇等	60.0%	120.0%	100%	88.8%	未達成	上昇等	88.8%	148.0%	100%	100%	生涯 学習課	令和6年度中に育児休業が取得可能な男性職員について、業務の困難性等により、取得困難な職員がいたため、目標達成に至らなかった。安心・安全に働くことができる職場づくり、ワークライフバランスの周知・啓発が必要と考える。	有効である	現状の取組を維持する	安心・安全に働くことができる職場づくりと、ワークライフバランスの周知・啓発など取組を継続し、計画を推進する。
審議会等における 女性登用率	26.8%	26.8%	30.0%	25.4%	未達成	下降等	84.7%	94.8%	33.0%	26.2%	未達成	上昇等	79.4%	103.1%	36.0%	40.0%	生涯 学習課	委員の団体等推薦の場合、女性の選出が少ない状況であり、女性登用率に大きな改善が見られない。男女共同参画を啓発し、女性活躍推進を図る必要がある。	有効である	現状の取組を維持する	①審議会等への女性登用と、審議会等委員の公募による女性登用の促進、②市政への関心と理解を深め、市政への積極的な参画の促進（広聴機会の充実や出前講座の開催）、などを全庁に周知啓発し、計画を推進する。
地方公共団体の管理職等に占める女性の割合	10.0%	10.1%	12.0%	10.3%	未達成	上昇等	85.8%	101.7%	14.0%	11.9%	未達成	上昇等	85.0%	115.5%	15.0%	16.0%	生涯 学習課	適切な判断力や政策形成能力、人事管理能力などを考察し、管理職として適正な人材の積極的登用を進めているが、その性格上、目標達成を前提とした管理職登用にはならない。	有効である	現状の取組を維持する	特定の職場にこだわることなく女性を配置し、能力開発や経験を積むなどキャリアの形成支援に努めながら、男女間格差のない管理職登用に取組む。

令和6年度の施策全体の評価

市民講演会と、男女共同参画計画推進委員会、庁内連絡会議それぞれで学習会を開催した。また、情報紙は2回発行したが、市長と推進委員との座談会特集号と、無意識の思い込みを取り上げるなど市民の興味を引くよう内容を工夫するとともに、新たに医療機関に配布した。また、出前講座にDVと市男女共同参画計画に関する2メニューを加えた。

さらに、令和6年度は、女性がいきいきと暮らし、活躍できる地域づくりに向け、全5回の女性活躍推進セミナーを開催した。

しかし、市民講演会は28人の聴講者で、また、出前講座は申請がなく、低調であった。KPIの3指標は令和5年度からは上昇しているものの、未達成であり、市民、地域団体、事業者との連携・協働の共通認識の形成に向けた啓発活動を強化する必要がある。

令和8年度の施策の取組方針・主な取組例の考え方

市民講演会や学習会、情報紙の発行を柱に、市民の興味を引く内容を取り上げながら、市民啓発に取り組んでいく。情報紙については、配布効果が発揮できるよう、配布先の不断の見直しを行っていく。出前講座の申請がない状況を踏まえ、メニューの周知を強化していく。

女性活躍推進セミナーは、令和8年度を仕上げの年と位置づけ、最終目標である市政への女性参加（指標としては審議会等における女性登用率）の向上を目指し、セミナー内容の充実を図る。

男女共同参画の推進は、分野横断的取組が必要であり、全庁あげての計画推進を啓発し、市民、地域団体、事業者との連携・協働の共通認識の形成を図る。